

「日本銀行の マクロブルーデンス面での 取組み」を公表（十月十八日）

▼米国リーマン・ブラザーズ証券の破綻以降、「金融危機の再発を防止するためには、金融システム全体のリスクの状況を分析・評価し、システムミックリスクの顕在化防止に向けた施策を講じることが重要である」との認識（いわゆる「マクロブルーデンス」の重視）が、国際的に広く共有されるようになっていきます。

日本銀行もマクロブルーデンス面で様々な取組みの強化を図ってきました。

本資料は日本銀行のマクロブルーデンス面での考え方と取組みを説明したものです。

※詳細は日本銀行HPをご覧ください。
やこ。

[http://www.boj.or.jp/finsys/
fs_policy/fin111018a.pdf](http://www.boj.or.jp/finsys/fs_policy/fin111018a.pdf)

「地域経済報告」さくらレポート を公表（十月二十日）

▼本報告は十月二十日開催の支店長会議に向けて収集された情報をもとに、支店等地域経済担当部署からの報告を集約したものです。

※詳細は日本銀行HPをご覧ください。
さい。

[http://www.boj.or.jp/research/
brp/ret/ret111020.htm](http://www.boj.or.jp/research/brp/ret/ret111020.htm)

「にちぎん体験二〇一」 の開催

▼日本銀行本店では、十月三十日

（日）～十一月四日（金）（三日（祝を除く）の期間、「にちぎん体験二〇一」と題して、企画展、市民講座、休日本店見学ツアーを開催しました。

また、金融研究所貨幣博物館も「にちぎん体験二〇一」の期間中、開館時間を二十時三十分まで延長しました（通常十六時三十分）。

▼企画展「あの頃の風景～日銀と日本橋の出会い」では、本店本館内の特設展示室において、現在の日本橋の架橋一〇〇年にちなみ、同じ頃に建設された本店本館の建築風景や当時の日本橋周辺の様子を記録した写真を展示し、明治期の日銀と日本橋の情景をしのんでいただきました。

また、日本銀行が行っている様々な業務や東日本大震災に際しての日銀の取組みについても、パネル展示や体験コーナーで紹介しました。

▼十月三十日（日）には、「休日本店見学ツアー」として、通常平日のみに実施している本店本館の見



100年前の執務室風景（国債局事務室）



100年前の執務室風景（損傷兌換銀行券整理室）

学ツアーを開催し、国の重要文化財に指定されている日本銀行本店本館の建物内部や旧地下金庫をご案内しました。

また、日本銀行に関するテーマを題材として、日本銀行職員が日本銀行の機能と業務や本店本館の歴

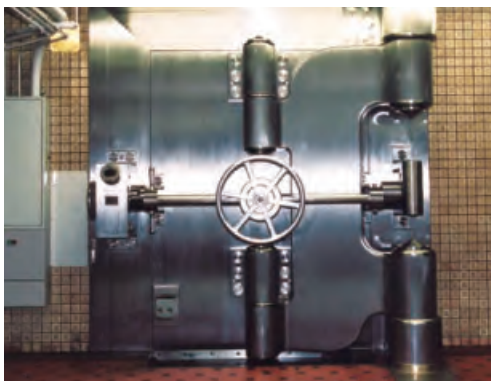
史について解説する休日市民講座も開催しました。
 ▼平日（十月三十一日、十一月一、二、四日）に開催した夜間の「市民講座」では、日本銀行に関わる四つのテーマ「にちぎん入門」「百年



ずらりと並ぶ歴代総裁の肖像画を見学



企画展の一コマ。パレットに積まれた40億円十束封（模擬券）（手前）と1億円分の銀行券重さ体験コーナー（奥）



本店本館の旧地下金庫

講座参加者には、本店本館の旧地下金庫をご覧いただきました。また、屋外灯のともった日銀本館の中庭の風情を楽しんでいただくなど、いつもの見学ツアーとは一

前の日銀本店の建物」「お札の一生と日銀」「円」誕生！―江戸から明治へ―」を取り上げました。各講座では、それぞれ実務や研究に携わる日本銀行職員が、日本銀行の役割や日銀本店本館の歴史、お金をめぐる話題などをテーマに自らの知識や経験を踏まえて、写真や図などを使って詳しく説明しました。



本店内で開催された市民講座

味違った体験もしていただきました。▼日本銀行では、今後も、日本銀行を身近に感じていただき、日本銀行への理解を深めていただくことができるよう、今回のような催しなど、さまざまな取組みを行っていきたくと考えています。

なお、平日に実施している日本銀行見学ツアーは、事前のお申し込みがあれば、随時ご参加いただけます。皆さまのお越しをお待ちしております。

※日本銀行見学ツアーの詳細は、



▼日本銀行は、一八八二年（明治十五）に開業後、日本銀行券を全国に供給し、地域の金融を円滑にするため各地に出張所や支店を設

**日本銀行旧小樽支店
 金融資料館特別展
 「日本銀行支店建築と
 建築家辰野金吾・長野宇平治」
 開催中！ 三月十八日まで**

日本銀行HPをご覧ください。
<http://www.boj.or.jp/>

編集後記

■わが国の陸上競技の歴史にさんぜんと輝く結果を残された朝原さん。北京五輪のリレー決勝を伝えるテレビに「頑張れニッポン」と叫んだことを思い出しました。今は、わが国がさまざまな困難に直面する中、自分への鼓舞も含め、「頑張ろうニッポン」と心の中で叫んでいます。(鮎瀬)

■今回「FOCUS→BOJ」で取り上げたのは「短観」です。3カ月ごとに公表される調査結果は、新聞やテレビニュースでも大きく報じられるため、ご存じの読者も多いと思いますが、今回は、短観の報道に携わる新聞記者の方や、短観の結果に注目する企業関係者、現場で働く日本銀行職員にも取材を広げ、「短観が注目される理由」にFOCUSしてみました。「FOCUS→BOJ」は前号(2011年秋号)に始まったばかりの新企画で、まだまだ試行錯誤もありますが、今後も、あまり知られていない日本銀行の仕事や、外からは見えづらい日銀職員の仕事の様子などをお伝えできればと考えています。(H1)

■今回訪れた答志島は、伊勢湾の豊富な海洋資源を活かし、古くより漁業が盛んな島である。このため、自然を崇敬した習慣が、今なお日常生活に多く残っている。玄関や漁船などに記された八の字(八幡信仰)の魔よけ、年中軒下に飾られたしめ縄など、質朴なものばかりだが、それがかかって信仰心の強さを物語る。この人口3,000人余りの島の人々は、生きる糧である自然を、抗し難い大きな力としても畏敬する。こうした力と共存すべく寝屋子制度という「人のきずな」を強固に保つシステムを作り、今日まで伝承してきた。自然の脅威を目の当たりにしたわれわれが、今、見詰め直しているものを伊勢湾に浮かぶ小さな島に見つけた気がした。(HT)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2011年冬号
編集・発行人 鮎瀬典夫
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

置しました。

支店は既存の建物を購入したり借り入れによって業務を始めましたが、本店が辰野金吾の設計により一八九六年(明治二十九)に日本橋へ新築・移転した後、辰野金吾やその下で学んだ長野宇平治らの設計により本格的に支店建物の建築が進められました。

今回の特別展では、辰野金吾と長野宇平治が設計に携わった日本銀行支店建物について、当時の写

真などによりご紹介します。

※最新の開館情報は金融資料館HPをご覧ください。

<http://www3.boj.or.jp/otaru-m/>

△通常の開館時間▽

【開館時間】 九時三十分～

十七時(入館は十六時

三十分まで)

【休館日】 月曜日(ただし月



曜日が祝日・振替休日のときは、その翌日以降の最初の平日、年末年始(十二月三十一日～一月五日)、このほか、展示入れ替え等のため臨時休館することがあります。

【入館料】 無料

【所在地】 北海道小樽市色内

一―一―一六

【お問い合わせ先】

〇一三四―二―一―一